



感染拡大防止へ一躍

栄光福祉会がマスク8万6,000枚を寄贈

2月27日と28日、流行している新型コロナウイルスの感染拡大の防止のため、合計8万6000枚のマスクが栄光福祉会（三潴町）から久留米市へ寄贈されました。マスクは市内の医療機関と小・中・高校、保育園などに配布されました。

同会の樋口博之会長は「マスク販売業者が廃業する際、在庫処分を買っていた物です。多くの人に役立つことになつたのは嬉しい限り。ぜひ有効活用してほしいです」と話しました。

走りながら防犯
パトラン久留米がセミナー初開催
2月23日、久留米アリーナで「ながら防犯」の啓発セミナーが開催されました。ながら防犯は、通勤しながら、犬の散歩をしながらなど、日常生活に防犯を取り入れた活動です。主催は、ランニングしながらパトロールをする「パトラン久留米」。同日、全国組織パトランJAPANから、公認チームとして認定されました。代表の栗原咲子さんは「一人でも多くの人に、地域の防犯について考えてもらうきっかけになれば」と話しました。

市政の動き

新型コロナ感染拡大も学びを止めない

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、久留米市はイベントや会議などの中止、公共交通機関の休館を決定しました。また、相談センターの受付時間を延長。8時30分から21時まで、土・日曜、祝日も含めて対応しています。長い時間集団で過ごすことにによる感染から子どもたちを守るために、3月9日から市立小・中・特別支援学校・高校の臨時休校を決定。その間も学ぶ機会を保障するため、プリントや学習ドリルなどを使った自学自習を取り組みます。また、民間企業や団体などから提供されたさまざまな学習支援アプリやWEBサ

市ホームページ
「新型コロナ感染症
防止休校中の過渡
ごし方」へ
詳しくはQRコード



自宅で学習するための学習支援アプリを説明する教育センターの松本良一所長

作品から見る画家の人生

久留米市美術館は九州洋画の体系的なコレクションを目指し、作品収集を続けています。収集が進行形である、という意味を込めた「久留米市美術館のコレクション ing」展を開催します。

久留米市美術館
KURUME CITY ART MUSEUM
ISHIBASHI CULTURAL CENTER

久留米市美術館のコレクション
絵かきになりたい!

4月4日(土)から5月31日(日)まで

年齢に注目
「久留米市美術館のコレクション ing」展では、4月4日(土)から5月31日(日)まで九州にゆかりのある洋画家の作品を中心に紹介します。昨年度までに、市美術館が新たに収集した作品約40点や、石橋財団アートイズン美術館（旧ブリヂストン美術館）所蔵の作品、個人寄託作品など約120点を展示します。

第3弾の今回は、制作時の画家の年齢に注目した企画展です。論語の「吾十有五にして學に志し」から始まる一節を基に、作品を6章に分け、10代から80代までの年齢順に作品を紹介します。

20代の青木繁の勢いがある筆使いのスケッチや、80代の坂本繁二郎の静かで穏やかな静物画などを見ることができます。
紹介する画家の多くは、10代で画家になりたいという思いをもち、絵の道に進むことを決意しています。上京や海外留学などを経験し、自らの芸術を追求していく画家の歩みがそれぞれの世代の作品にも反映されていく様子が見られます。

彼らの言葉もパネルで紹介します。若くして亡くなつた青木繁の「われは丹青によって、男子たらん」や、80代までひたむきに制作を続けた坂本繁二郎の



22歳で制作
青木繁《絵かるた（在原業平）》1904年
寄託作品

64歳で制作
高島野十郎《ぶどうとりんご》1954年
久留米市美術館蔵

77歳で制作
野見山暁治《風の便り》1997年
石橋財団アートイズン美術館蔵

入館料 500円。65歳以上・大学生300円。高校生以下無料。15人以上の団体割引あり
休館日 4月4日(土)から5月31日(日)まで10時～17時。入館は16時30分まで
料。15人以上の団体割引あり
周久留米市美術館(0942-39-1131、FAX 0942-39-3134)へ
詳しくはQRコード

年齢に注目

「生まれ変わってもまた画家になりたい」といった言葉には、それぞれの画家としての制作態度が表れています。

「生まれ変わってもまた画家になりたい」といった言葉には、それぞれの画家としての制作態度が表れています。